ノート

平成 23 年 12 月 21 日受理

中・高美術教科書で注目される題材
― 芸術文化学部授業科目と美術教科書題材の比較を通して ―

Noteworthy Subjects in Art Textbook

● ペルトネン純子／富山大学芸術文化学部
Junko Peltonen / The Faculty of Art and Design, University of Toyama

● Key Words: Art Textbook, Art Education, Crafts, Design, Junior High School, High School, Class Subject

要旨

本研究では、芸術文化学部授業科目を美術科の表現活動と鑑賞活動および８つの内容別題材分野による振り分け、さらに美術教科書内容を８つの内容別題材分野および芸術文化学部専門教育科目分野に振り分ける試みを行った。その結果から、芸術文化学部授業科目と美術教科書内容において表現活動と鑑賞活動の割合は似ているが、芸術文化学部で最も多く開講している授業科目はデザイン題材で、次いで工芸題材、建築題材の順であること、そして美術教科書内容において最も取り上げられているのは絵画題材で、次いで彫刻題材、デザイン題材の順であることなどがわかり、芸術文化学部と美術教科書は、異なる分野を教育の対象にしていると考えられた。以上のことから、中・高美術教科書で注目される題材は、共同による創造活動および地域や社会を強く意識した絵画題材や彫刻題材であるということを導き出した。また芸術文化学部授業科目と美術教科書内容の照合をあえて行ったことが、学習指導要領で特に注目してきている鑑賞学習の充実・国際理解・地域の美術館や博物館の活用・自然の造形や美術文化への関心等、美術教科書内容に強く反映されていることを容易に判断させる結果をもたらした。

１．はじめに

筆者が指導に加わった美術科教育法の授業において、学生達は学習指導案作成のために美術教科書内容を確認していた。そこには、彼らの記憶に強く残る絵画や彫刻の制作だけではなく、デザインや地域との取り組み等が多くみられた。そのとき学生達は、自身の専門研究分野と美術教科書題材内容に共通性を見出すと同時に驚きを持っていた。中・高教育の延長線上にある高等教育機関として芸術文化学部があり、芸術文化学部の授業科目と美術教科書題材に関連性があることなど当然のことかもしれない。しかし、驚きを持った学生達にとっては、自身の専門研究と中・高美術に関連性を見いだせていなかったと考えられる。

芸術文化学部に入学する学生のうち美術科教員になろうと考える者は多くない。しかし美術科の教員免許状を取得しようとする者は多くいる。平成21年度卒業者のうち20名、平成22年度卒業者のうち９名が教員免許状を取得した。そして平成23年現在に在学中の学生のうち、４年生24名、３年生32名、２年生21名が、教員免許状を取得しようとしている（表１）。それらの学生の多くは、卒業要件外の教職授業のために、専門研究を行えるはずの多くの時間を割かなければならないため教職授業を履修することに大きな負担を感じている。

また、美術科教育といえば絵画や彫刻といった考え方が学生の中で先行するため、絵画や彫刻以外を専門研究とする学生達は、教職授業と専門研究授業との間に関連性を見出そうとしていない。特に、美術科教員になろう

表１　教員免許状取得者および取得予定者（平成23年11月現在）

		芸術文化学部					合計数
		造形芸術	デザイン工芸	デザイン情報	造形建築科学	文化マネジメント	
取　得　者	H21年度	10	10	0	0	0	20
	H22年度	4	3	2	0	0	9
取得予定者	H23年度	5	10	9	0	0	24
	H24年度	9	16	5	0	2	32
	H25年度	12	8	1	0	0	21
合計数		40	47	17	0	2	106

と考えていない教職履修者は、教職授業だけでなく美術科教育と自身の専門性とのつながりも見出そうとしていない。しかし筆者は、学生自身の専門研究授業の中にこそ、これからの美術科教育に活かされる教育方法があると考える。

そこで本研究では、芸術文化学部授業科目と現在使用される中・高美術教科書題材をあえて比較し、芸術文化学部授業科目を中・高美術教科書題材で振り分け、芸術文化学部で開講されるいかなる授業科目分野が中・高美術科のいかなる活動に活かされるのか、さらに美術教科書の各活動で扱われる内容の分類および美術教科書の各活動を芸術文化学部の授業科目に照らし合わせ、美術教科書で注目される題材の傾向について明らかにする。

2．芸術文化学部授業科目と中・高美術教科書の照合を通して

2.1．美術教科書について

本研究で調査する美術教科書は、筆者が指導に用いた平成22年度に中学および高等学校で用いられた美術教科書[※1　1－16]である。これらの教科書の概要については表２にまとめている。調査対象の美術教科書は、中学校用のものが９冊、高等学校用のものが７冊、合計16冊である。中学校用美術教科書を作成している発行者は、日本文教出版（以後、日文と表記）、光村図書出版（以後、光村と表記）、開隆堂出版（以後、開隆堂と表記）の３社。高等学校用美術教科書を作成している発行者は、日文、光村の２社。美術教科書のサイズや構成は、各社それぞれ異なっている。また各社で掲載している参考作品の種類や取り上げ方は様々なため、一見すると異なる学習が盛り込まれているようにも見える。しかし、いずれの美術教科書を使用しても中学校および高等学校の学習指導要領を踏まえて作成されているため、学習範囲に大きな内容の違いは生じない。

中学校学習指導要領第６節美術の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。」[17]とある。また高等学校指導要領第12節美術の目標には「美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する意欲と態度を養う。」[18]とある。全体的には、鑑賞指導の充実、国際理解、地域の美術館や博物館の活用、自然の造形や美術文化への関心等が重視され、地域や学校を中心とした鑑賞学習の質を高めている。また各子どもたちの主体的な表現や、個性による創造を行いながらも共同による創造活動の経験を推進するなどといった内容が多く盛り込まれた内容となっている[19]。

2.2．芸術文化学部の授業科目について

平成23年度芸術文化学部シラバスをもとに、芸術文化学部の概括的な授業科目を表3のように整理した。それによると、⑯デザイン関連の授業科目が最も多く33科目、次に⑭造形関連と⑲芸術文化論関連で32科目ずつ、⑰建築関連で30科目、⑮工芸関連で25科目という授業数になっていることがわかった。さらに、造形系、

表２　平成22年度に用いられる美術教科書（公益財団法人教科書研究センター、教科書目録情報データベースより）

	書　　名	学校種類	種目	発行者略称	教科書記号	使用年度	検定年月日
1	美術１　自由な心で	中学校	美術	日文	美術711	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
2	美術２・３上　美を求めて	中学校	美術	日文	美術811	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
3	美術２・３下　美術の広がり	中学校	美術	日文	美術812	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
4	美術１	中学校	美術	光村	美術709	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
5	美術2・3上　絵・彫刻編	中学校	美術	光村	美術809	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
6	美術2・3下　デザイン・工芸編	中学校	美術	光村	美術810	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
7	美術１	中学校	美術	開隆堂	美術707	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
8	美術2・3上	中学校	美術	開隆堂	美術807	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
9	美術2・3下	中学校	美術	開隆堂	美術808	H18-H23(2006-2011)	平成17年3月28日
10	美・創造へ１	高等学校	美術1	日文	美1－006	H19-H99(2007-2087)	平成18年3月9日
11	高校美術１	高等学校	美術1	日文	美1－005	H19-H99(2007-2087)	平成18年3月9日
12	高校美術2	高等学校	美術2	日文	美2－004	H20-H99(2008-2087)	平成19年3月8日
13	高校美術3	高等学校	美術3	日文	美3－004	H21-H99(2009-2087)	平成20年3月17日
14	美術１	高等学校	美術1	光村	美1－004	H19-H99(2007-2087)	平成18年3月9日
15	美術2	高等学校	美術2	光村	美2－003	H20-H99(2008-2087)	平成19年3月8日
16	美術3	高等学校	美術3	光村	美3－003	H21-H99(2009-2087)	平成20年3月17日

表３　芸術文化学部の概括的な授業科目について

		授業科目分野																				
		教養教育科目（共通基礎科目）				教養教育科目（教養科目）			専門教育科目（学部共通科目）					専門教育科目（基幹科目、展開科目）							専門教育科目（卒業研究・制作）	
		①外国語科目	②情報処理科目	③健康・スポーツ科目	④基礎ゼミナール	⑤人文科学系科目	⑥社会科学系科目	⑦自然科学系科目	⑧造形の基礎	⑨デザインの基礎	⑩建築・科学の基礎	⑪芸術・文化マネジメントの基礎	⑫社会・情報の理解	⑬情報処理関連	⑭造形関連	⑮工芸関連	⑯デザイン関連	⑰建築関連	⑱材料関連	⑲芸術文化論関連	⑳他（分野なし）	合計数
教養教育科目	共通基礎科目	18	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
	立山マルチヴァース講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	教養科目	0	0	0	0	6	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
専門教育科目	学部共通科目	0	0	0	0	0	0	0	16	13	11	9	6	0	0	0	0	0	0	0	0	55
	基幹科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	16	14	16	14	6	13	0	82
	展開科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	16	11	17	16	8	19	0	90
	卒業研究・制作	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	特別講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計数		18	3	3	1	6	6	5	16	13	11	9	6	6	32	25	33	30	14	32	3	272

工芸系、デザイン系、建築系、材料系、芸術文化論系のように授業科目をまとめてゆくと芸術文化学部のアドミッションポリシー※2にある芸術文化学部の「専門教育」の様相が強く見えてくることもわかった。そこでこれ以降では、専門教育科目の授業科目を調査対象とする。

専門教育の様相を強く現す芸術文化学部の授業科目は、アドミッションポリシーの内容をどのように反映しているのか。それを調べるため、アドミッションポリシーから６つのキーワード(a) 幅広い理解力、(b) 横断的な内容、(c) 創造活動、(d) 創り手、(e) 使い手（芸術文化を理解し社会で活かす）、(f) つなぎ手（社会に芸術文化の定着と市域振興を進める）を抽出し、各授業科目に照らし合わせてゆくことにした。

各授業科目をキーワードに照らし合わせるにあたり、シラバスに掲載される各授業科目の「授業のねらい」、「達成目標」、「キーワード」、「関連科目」の項目を参考にした。また(a)～(f)に振り分ける方法は、次の通りである。(a)幅広い理解力：特に理解しなければならないことが多種多様な場合。(b)横断的な内容：主に関連授業の有無。(c)創造活動：主に創造的な制作や思考を重視する内容の場合。(d)創り手：主に技能面や経験を重視している内容の場合。(e)使い手：授業外や卒業後などに活用することを含む内容の場合。(f)つなぎ手：社会や地域と関わりながら授業科目を展開する場合。

振り分けた例として、「⑧造形の基礎、パブリックアート論」では、「授業のねらい」にある「公共空間における造形のあり方について制作者と鑑賞者の両視点から論及し、日本のパブリックアートの歴史から、現況的捉え方の問題に至るまでを、フィールドワークの形式も取りながら」という部分や、「達成目標」の「造形表現者としての社会的責任や公共性を有した造形の在り方について認識を深め」という部分、「キーワード」の「公共空間、野外造形、空間造形」を参考に、(c)創造活動、(d)創り手、(f)使い手（芸術文化を理解し社会で活かす）に振り分けた。「⑨デザインの基礎、まちづくり」は、「授業のねらい」にある「公共交通の活性化や生活景観づくりなどを通してまちの魅力を問い直す。また、ワークショップの進め方や合意形成の手法を学び、市民参加型まちづくりの進め方について学ぶ。」という部分、「達成目標」にある「高岡の活性化に対して具体的なアクションを起こす」という部分、「キーワード」の「景観、ユニバーサルデザイン、地場産業、お土産、

祭、イベント」という部分、「関連科目」に７つもの授業科目をあげ横断的な学びを期待している点などを参考に、(a)幅広い理解力、(b)横断的な内容、(d)創り手、(e)使い手（芸術文化を理解し社会で活かす）、(f)つなぎ手（社会に芸術文化の定着と地域振興を進める）に振り分けた。「⑮工芸関連、金属造形（鍛金）Ⅰ」は、「授業のねらい」にある「金属素材の性質を学び、道具の扱い方を修得し、さらにその過程から得られる器物の制作を行う。また、制作過程において学んだことや観察したことなどについて詳細な記録をとり、どのような過程を経てつくられたのかについて記述されたノートの作成および発表を行う。」という部分、「達成目標」にある「『湯床吹き』技法を理解する。制作ノートをつくる。作品及び制作過程について発表できるようになる」という部分、「キーワード」にある「鍛金、打ち延べ、湯床吹き、熔解、制作ノート」という部分、「関連科目」にある５つもの授業科目をあげ横断的な学びを期待している点などを参考に、(a)幅広い理解力、(b)横断的な内容、(d)創り手、に振り分けた。「⑲芸術文化論関連、観光英語」は、「授業のねらい」にある「人間の果たす役割が大変大きいサービス業界で使われる英語を切り口にして、社会にでて仕事で使われる英語『ビジネスコミュニケーション』がどのようなものなのかを学びます。（中略）将来、観光に限らずあらゆる会社や団体に勤務をして、何らかの形で海外との接点をもつ仕事をしたいと思っている人には必ず受講してほしい授業です。」という部分、「達成目標」にある「観光・サービス業界で使われる英語表現の実例を知り、これまでに身に付けた英語力を使って、実際に使われる基礎的なコミュニケーションができるようになる」という部分、「キーワード」にある「観光、ビジネス、スピーキング、ライティング」という部分を参考に、(a)幅広い理解力、(e)使い手（芸術文化を理解し社会で活かす）、に振り分けた。

照合の結果（表４）、(a)幅広い理解力が191授業科目、次いで(d)創り手に143授業科目、(b)横断的な内容に121授業科目、(e)使い手に69授業科目、(c)創造活動に48授業科目、(f)つなぎ手に23授業科目が、あてはまることがわかった。主に創り手として幅広い理解力を養わせる横断的な授業科目が多く開講されているということが言えるのではないかと考えた。つまりアドミッションポリシーに謳われている「横断的に学ぶ」と「専門教育」とは、専門的な創り手として幅広い理解力を養わせる横断的な授業科目の開講を主としているということを意味しているのではないかと考えた。

２.３．表５について

表５は、芸術文化学部授業科目を、中・高美術科での表現と鑑賞活動さらに内容別題材に振り分け、美術教科書で扱われている項目を通した場合の芸術文化学部授業科目の分布を調べたものである。

表５の横軸にある「表現」と「鑑賞」は、美術教科書で分類している項目ともいえるが、学習指導要領において生徒に教育すべき内容の大きな分類として「表現」と

表４　芸術文化学部におけるアドミッションポリシーのキーワードから見た授業科目

		芸術文化学部におけるアドミッションポリシーのキーワード[1]						合計数
		(a)幅広い理解力	(b)横断的な内容	(c)創造活動	(d)創り手	(e)使い手（芸術文化を理解し社会で活かす）	(f)つなぎ手（社会に芸術文化の定着と地域振興を進める）	
芸術文化学部における専門教育科目（学部共通科目、基幹科目、展開科目）の授業科目分野	⑧造形の基礎	7	2	8	16	1	2	36
	⑨デザインの基礎	6	10	2	13	4	1	36
	⑩建築・科学の基礎	11	0	1	3	0	0	15
	⑪芸術・文化マネジメントの基礎	9	0	0	0	3	6	18
	⑫社会・情報の理解	6	6	0	0	1	1	14
	⑬情報処理関連	6	4	0	4	1	0	15
	⑭造形関連	25	18	15	30	5	2	95
	⑮工芸関連	23	14	11	21	1	0	70
	⑯デザイン関連	29	25	7	29	16	4	110
	⑰建築関連	26	17	2	18	22	0	85
	⑱材料関連	14	8	0	2	4	1	29
	⑲芸術文化論関連	29	17	2	7	11	6	72
合計数		191	121	48	143	69	23	595

1）キーワードは、芸術文化学部アドミッションポリシーから、筆者が独自に抜き出した。

表５　芸術文化学部授業科目と美術教科書の内容別題材との照合

			中・高美術教科書										合計数
			美術科の活動		内 容 別 題 材								
			表現	鑑賞	絵画	彫刻	デザイン	映像メディア	工芸	写真	プロジェクト	建築	
芸術文化学部における専門教育科目（学部共通科目、基幹科目、展開科目）の授業科目分野	⑧造形の基礎		14	2	2	3	4	1	8	1	1	0	36
	⑨デザインの基礎		7	6	0	0	13	4	6	0	1	0	37
	⑩建築・科学の基礎		0	11	0	0	11	0	6	0	0	11	39
	⑪芸術・文化マネジメントの基礎		0	9	2	2	5	0	3	2	8	2	33
	⑫社会・情報の理解		3	3	0	0	2	2	0	0	4	0	14
	⑬情報処理関連	基幹	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	9
		展開	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	9
	⑭造形関連	基幹	14	2	8	6	2	2	1	0	0	0	35
		展開	14	0	4	12	0	3	0	0	0	0	33
	⑮工芸関連	基幹	13	1	0	1	1	0	14	0	0	0	30
		展開	11	0	0	0	4	0	11	0	0	0	26
	⑯デザイン関連	基幹	11	4	0	0	15	0	4	0	1	0	35
		展開	16	1	0	0	17	0	3	0	4	0	41
	⑰建築関連	基幹	2	12	0	0	3	0	0	0	0	14	31
		展開	5	10	0	0	1	0	1	0	0	15	32
	⑱材料関連	基幹	0	6	0	0	0	0	6	0	0	6	18
		展開	0	8	0	0	0	0	8	0	0	8	24
	⑲芸術文化論関連	基幹	0	13	5	5	5	3	6	5	13	5	60
		展開	10	6	0	0	5	1	1	0	16	0	39
合計数			126	94	21	29	94	22	78	8	48	61	581

「鑑賞」が設定されている。この点から、「表現」と「鑑賞」に照らし合わせる必要があると考えた。照らし合わせの方法は、表現活動を主に実習及び演習科目、鑑賞活動を主に講義科目とした。

また、中・高美術教科書題材の内容別題材の項目は、「絵画」、「彫刻」、「デザイン」、「映像メディア」、「工芸」、「写真」、「プロジェクト」、「建築」とした。特に「プロジェクト」には、社会や地域と関わり実践する内容をあてはめることにした。これらの項目の選出については、平成17年6月22日に東京都教育委員会が作成した中学校用教科書調査研究資料における美術の別紙2－1の作品内容の表記を参考にした[※3]。この内容別題材の項目は、一つの題材名の中に掲載される作品の内容を示したものである。各題材名において何を掲載しているかを知ることにより、題材名が含む教育のねらいを知ることができる。そこで芸術文化学部授業科目を各内容別題材に照らし合わせることで、各題材のねらいを含んだ教育を実施するための研究を学べる授業科目を知ることができると考えた。

各授業科目を内容別題材に照らし合わせるにあたり、各授業科目のシラバスに掲載される「授業種別」、「授業のねらい」、「達成目標」、「キーワード」、「関連科目」の項目を参考にした。

振り分けた例として、「⑧造形の基礎、パブリックアート論」では、「授業種別」にある「講義科目」、前述にあるような「授業のねらい」、「達成目標」から、講義科目ではあるものの「表現」に振り分け、「彫刻」と「プロジェクト」に振り分けた。「⑨デザインの基礎、まちづくり」では、「授業種別」にある「講義科目」、前述にあるような「授業のねらい」、「達成目標」、「キーワード」、「関連科目」から、「鑑賞」と「デザイン」と「プロジェクト」に振り分けた。「⑮工芸関連、金属造形（鍛金）Ⅰ」は、「授業種別」にある「実習科目」、前述にあるような「授業のねらい」、「達成目標」、「キーワード」、「関連科目」から、「表現」と「工芸」に振り分けた。「⑲芸術文化論関連、観光英語」は、「授業種別」にある「講義科目」、前述にあるような「授業のねらい」、「達成目標」、「キーワード」から、「鑑賞」と「プロジェクト」に振り分けた。

2.4．表6から表9について

表6から表9は、中・高美術教科書の各題材名を縦軸に一覧にし、題材名ごとに用いる内容別題材を横軸にあらわした。さらに各題材名の内容別題材を踏まえて芸術文化学部授業科目分野に振り分けたものである。

横軸の左半分に示したのが、内容別題材の項目である。この照合によって各題材名の持つ題材内容の範囲を把握する。内容別題材の項目の選出は、２．３．で述べたとおりである。また横軸の右半分は、芸術文化学部の基幹科目および展開科目の分野名である。この照合によって芸術文化学部授業科目分野を通して見えてくる美術教科書の特色を考察する。

各題材名を内容別題材と芸術文化学部授業科目に振り分けるにあたり、美術教科書の各題材名のページにある写真、図および記述を参考にした。そして絵画および彫刻の掲載がある場合は、「造形関連」に振り分けた。工芸、クラフト、プロダクトの掲載がある場合は、「工芸関連」に振り分けた。グラフィック、映像メディア、プロダクト、コンセプトワークの掲載がある場合は、「デザイン関連」に振り分けた。建築の掲載がある場合、「建築関連」に振り分けた。素材の性質、種類、加工方法、ものの構造に関する内容の記述がある場合、「材料関連」に振り分けた。鑑賞活動、美術館、博物館、文化財、美意識、感性、地域、文化、歴史の記述がある場合、「芸術文化論関連」に振り分けた。

振り分けた例として、「日文、美術７１１、中学１年、つくり出す喜び」は、３ページ分の掲載面に、『身近にある美しさを見つけ出す喜びや、思いのままに表現することの楽しさを味わう中から、美術の活動の魅力を感じ取ろう』という記述があり、この記述に沿った作品が紹介されている。「[サクラの葉・ヤナギの若枝]1985　ニルス・ウド[ドイツ・1937~]」は、「彫刻」と「造形関連」に振り分けた。「[47都道府県の土採集　栗田宏一［山梨県・1962~]]」および作品に関連する記述は、「工芸」と「工芸関連」と「材料関連」に振り分けた。生徒作品の「ふたごのビル[写真]」は、「写真」と「建築関連」と「デザイン」に振り分けた。生徒作品の「よりそう二人[写真]」と「不思議な模様の世界[写真]」は、「写真」と「デザイン」と「デザイン関連」に振り分けた。また、「開隆堂、美術808、中学２・３下、デザインの物語」は、２ページ分の掲載面に、『デザインと工芸の歴史や広がりに関心をもとう。生活の変化とデザインのかかわりに注目しよう。それぞれの時代にデザインの特徴を学ぼう。近代のデザインや工芸のよさを鑑賞しよう』という記述があり、この記述に沿った作品が紹介されている。「ひじかけいす 1902~03　ルイ・マジョレル（1859~1926フランス）オルセー美術館、フランス」は、「デザイン」と「工芸」と「工芸関連」と「デザイン関連」に振り分けた。「地下鉄入口　1900年　エクトール・ギマール（1867~1942フランス）フランス」は、「デザイン」と「建築」と「デザイン関連」と「建築関連」に振り分けた。この題材が鑑賞活動であるということと「工芸デザインの交流」や「工業デザインの始まり」といった歴史とともに美術を捉えさせようとする記述があることから、「芸術文化論関連」に振り分けた。さらに「光村、美Ｉ004、高等学校１、見る・知る・学ぶ」は、２ページ分の掲載面には、「アンコールワットの遺跡群」というサブタイトル、アンコールワットに関する記述とともに、アンコールワット遺跡の写真、図面、修復中の写真、遺跡に残される浮き彫りの図像をコンピュータに取りこみ図像を保存する方法などの紹介がされており、「絵画」、「彫刻」、「デザイン」、「映像メディア」、「プロジェクト」、「建築」、そして「情報処理関連」、「造形関連」、「工芸関連」、「デザイン関連」、「建築関連」、「材料関連」、「芸術文化論関連」に振り分けた。

2.5．表5～表9の照合によって導き出されたこと

表５の照合の結果、芸術文化学部授業科目を表現と鑑賞という学習方法で振り分けた場合、表現９：鑑賞6.7、つまり表現の方が鑑賞よりも約1.3倍実施されていることがわかった。東京都教育委員会が作成した中学校美術教科書調査によると、おおよそ表現７：鑑賞５、つまり表現の方が鑑賞よりも約1.4倍実施されている。これによって芸術文化学部と美術教科書の表現と鑑賞の割合が近いことがわかった。

さらに表５において、芸術文化学部授業科目を中・高美術教科書題材で扱う内容別題材の各項目に振り分けた結果、「デザイン題材」が最もあてはまり、次いで「工芸題材」、「建築題材」、「プロジェクト題材」、「彫刻題材」、「映像メディア題材」、「絵画題材」、「写真題材」という順であてはまることがわかった。

そして表６～表９における美術教科書の各題材名を美術科の活動で扱う内容別題材で振り分けると、内容別題材で最も用いられるのは、絵画、次いで彫刻、デザイン、工芸、建築、写真、映像メディア、プロジェクトという順であった。

また、表６～表９における美術教科書の各題材名の内容を芸術文化学部専門教育科目（基幹科目、展開科目）に振り分けた結果、最も多くあてはまった授業科目分野は造形関連、次いで芸術文化論関連、デザイン関連、工芸関連、建築関連、材料関連、情報処理関連という順であった。

美術教科書で最も取り上げられている内容別題材は絵

表６　中学校美術教科書　表現活動の題材名・作品内容と芸術文化学部授業科目分野

発行者	教科書記号	学年	題材名	美術科の表現活動で扱う内容別題材								芸術文化学部における専門教育科目（基幹科目、展開科目）						
				絵画	彫刻	デザイン	映像メディア	工芸	写真	プロジェクト	建築	情報処理関連	造形関連	工芸関連	デザイン関連	建築関連	材料関連	芸術文化論関連
日文	美術711	中1	つくり出す喜び		1	1		1	1		1		1	1	1	1	1	
			色との出会い	1		1		1					1	1	1			
			スケッチの楽しみ	1									1					
			見て、感じて	1									1					
			心に残る情景	1	1								1					
			想像の世界へ	1	1								1					
			版のよさを生かして	1									1					
			立体に表す楽しみ		1			1					1	1				
			自然の形や色を生かして		1			1					1	1				
			土と炎の出会い					1						1				
			遊び心のかたち		1			1					1	1				
			動く絵の楽しさ	1		1	1						1		1			
			文字を生かしたデザイン			1					1				1	1		
	美術811	中2・3上	新鮮な見方で	1									1					
			息づく空間	1	1								1					
			多様な表現を求めて	1	1								1					
			超現実的な世界	1									1					
			楽しく効果的に表そう	1		1							1		1			
			身近な人を見つめて	1	1								1					
			映像表現の広がり	1		1	1						1		1			
			光の表現・光の演出			1	1	1			1	1		1	1	1		
			手づくりの楽しみ					1						1				
			だれもが快適なデザイン			1		1						1	1			
			伝えよう大切なこと	1		1							1		1			
	美術812	中2・3下	自分らしさを見つけて	1									1					
			流れる時をとらえて	1	1								1					
			主張する美術	1	1	1							1		1			
			気持ちの形・思いの色	1	1								1					
			環境と響き合う造形		1						1		1			1		
			見え方の不思議	1		1		1					1	1	1			
			紙の造形			1		1						1	1			
			暮らしや生活を彩る	1		1		1					1	1	1			
			学校や地域への発信	1		1		1		1	1	1	1	1	1	1		1
			エコデザイン	1		1		1			1		1	1	1	1		
			共同制作の魅力	1	1	1				1	1		1		1	1		1
	小計			24	14	16	3	14	1	2	7	2	29	14	16	7	1	2
光村	美術709	中1	見つけた、ふれた、ひらめいた		1								1					
			見つめることから始めよう	1									1					
			大切な人や友達をあらわす	1					1				1		1			
			ちょっと立ち止まって	1					1				1		1			
			遠い・近いをあらわそう	1									1					
			かたちをまるごと感じてみよう		1			1					1	1				
			木版画の世界	1									1					
			色ってなんだろう	1		1							1		1			
			見ることの不思議	1		1		1					1	1	1			
			イラストで伝えよう	1		1							1		1			
			もののかたちと素材			1		1						1	1		1	
			さまざまな模様	1		1		1					1	1	1			
	美術809	中2・3上	美術館学芸員に聞く－展示の工夫	1	1								1					1
			感じたことを表現しよう	1									1					
			版画表現の味わい	1									1					
			漫画の表現	1		1	1						1		1			
			レンズがとらえた光景						1						1			
			動きをとらえる	1	1								1					
	美術810	中2・3下	伝えよう！みんなの文化祭	1		1	1					1	1		1			
			生活の中にあるデザイン			1		1						1	1			
			伝えること、伝わること	1		1	1					1	1		1			
			画像を素材に			1	1				1	1			1			
			動く絵をつくる	1		1	1					1	1		1			
			工芸に挑戦					1						1				
	小計			17	4	11	5	6	3	0	1	4	19	6	14	0	1	1
開隆堂	美術707	中1	表現の始まり	1	1								1					
			見ること発見	1					1				1		1			
			心通う風景	1									1					
			人間再発見	1	1								1					
			広がる形や色	1									1					
			写し取る形	1									1					
			立体がおもしろい		1								1					
			素材の魅力		1			1					1	1				
			学校ファンタジーランド	1	1	1				1	1		1		1	1		1
			デザインがおもしろい	1		1		1					1	1	1			
			自然からのおくりもの		1			1					1	1				
			アニメーションがおもしろい	1		1	1					1	1		1			
			色彩ワンダーランド	1	1	1		1		1			1	1	1			1
			光は友達	1		1	1			1	1		1		1	1		1
			伝えよう、私の歩み	1		1				1			1		1			1
			色彩ホームページ	1		1							1		1			
	美術807	中2・3上	風景に思いを込めて	1									1					
			私・わたし・僕・自分	1	1								1					
			空想の世界を描く	1									1					
			水墨の世界	1									1					
			立体との対話		1								1					
			彫刻が語る物語		1								1					
			トリックアート	1	1	1							1		1			
			イベントのデザイン	1	1	1	1				1		1		1	1		
			撮りたい私の一瞬			1	1		1						1			
			漫画の世界	1		1							1		1			
			やさしさのデザイン			1		1					1	1	1			
			伝達のデザイン	1		1												
			心をつなぐ	1		1		1					1	1	1			
			炎と熱でつくる					1						1				
			木や竹の造形					1						1		1		
			伝統の技を学ぶ					1						1				
	美術808	中2・3下	夢が広がる映像世界			1	1					1			1			
			装いの表現			1		1						1	1			
			私の好きな部屋			1		1			1			1	1	1		
			私の好きな街								1					1		
	小計			22	12	17	5	11	2	4	5	2	27	11	17	6	0	4
総合計				63	30	44	13	31	6	6	13	8	75	31	47	13	2	7

表７　中学校美術教科書　鑑賞活動の題材名・作品内容と芸術文化学部授業科目分野

発行者	教科書記号	学年	題材名	美術科の鑑賞活動で扱う内容別題材								芸術文化学部における専門教育科目（基幹科目、展開科目）						
				絵画	彫刻	デザイン	映像メディア	工芸	写真	プロジェクト	建築	情報処理関連	造形関連	工芸関連	デザイン関連	建築関連	材料関連	芸術文化論関連
日文	美術711	中1	澄んだ目と心で	1									1					1
			絵本は小さな美術館	1									1					1
			生活とデザイン			1		1						1	1			1
			見ることと描くこと	1									1					1
			のこされた造形	1	1			1					1	1			1	1
	美術811	中2・3上	自然の恵みと造形	1									1					1
			イメージを届けるデザイン			1									1			1
			もう一つの目						1						1			1
			現代に生きる伝統					1						1				1
			日本絵画の造形美	1									1					1
			日本の美術と世界	1	1			1			1		1	1		1		1
			北斎と遠近法	1									1					1
	美術812	中2・3下	自然との共生		1								1					1
			木との対話		1								1					1
			展示に託されたメッセージ	1		1				1	1		1		1	1	1	1
			人間と自然への賛歌	1	1								1					1
			色彩の輝き	1									1					1
			時代を映す美術	1	1	1							1		1			1
			アジアの多様な美術					1						1				1
	小　計			12	6	4	0	5	1	1	2	0	14	5	5	2	2	19
光村	美術709	中1	2011.12.312011.12.31	1		1	1						1		1			1
			かたちに込めた思い		1								1					1
			人のかたちに命を吹き込む	1									1					1
			光と影をとらえる	1		1		1	1				1	1	1			1
			日本の工芸の技と美しさ					1						1				1
			思いをかたちに		1						1		1			1		1
	美術809	中2・3上	作家に会いに行こう		1								1					1
			かたちの冒険	1	1								1					1
			印象派の画家たち	1									1					1
			ジャポニズム	1				1					1	1				1
			あれ、どうなっているの	1	1				1				1					1
			シルクロードの東西交流		1			1					1	1				1
			仏像の姿		1								1					1
			環境とアート	1	1				1				1		1			1
			常識を打ち砕く	1	1								1					1
			大衆文化を取り入れる	1		1							1		1			1
			行為の跡が作品になる	1									1					1
			表現の探究者	1	1			1	1				1	1	1			1
			人と美術	1	1			1	1		1		1	1	1	1		1
	美術810	中2・3下	作家に会いに行こう			1									1			1
			人と自然にやさしいデザイン			1		1			1			1	1	1		1
			デザインする仕事①			1		1						1	1			1
			デザインする仕事②			1									1			1
			舞台の魅力			1									1			1
			快適な公共施設			1					1				1	1		1
			日本の自然と暮らし	1							1		1			1		1
			伝統を受け継ぐ仕事								1					1		1
			わび・さび					1			1			1		1		1
			かぶく	1				1					1	1				1
			みやび	1				1					1	1				1
			いき	1				1					1	1				1
			生活の中に溶け込む芸術	1		1		1			1		1	1	1			1
			生活を変えた20世紀のデザイン			1		1			1	1		1	1	1		1
	小　計			18	11	11	1	14	5	0	9	1	23	14	14	8	0	33
開隆堂	美術707	中1	美術家は語る	1									1					1
			図画工作から美術へ	1	1			1					1	1				1
			感動・発見美術館	1	1	1				1			1		1			1
			パブロ・ピカソ	1	1								1					1
	美術807	中2・3上	美術家は語る	1	1								1					1
			西洋美術の歩み	1	1								1					1
			絵で見る人々の物語	1									1					1
	美術808	中2・3下	美術家は語る	1	1					1			1					1
			PEACE+FRIENDS	1		1							1		1			1
			遠近法の仕組み	1									1					1
			抽象への道	1	1								1					1
			日本画の色	1									1					1
			版画の可能性	1									1					1
			パブリックアート	1	1					1	1		1			1	1	1
			仏像物語		1								1					1
			自然をキャンバスに	1	1								1					1
			アジアの工芸					1						1				1
			デザインの物語			1		1			1			1	1	1		1
			これからのデザイン			1									1			1
			交流から生まれる鑑賞	1									1					1
			美術がある、今がある、未来がある								1					1		1
			美術の流れ	1	1			1			1		1	1		1		1
			暮らしの中のアーティスト			1		1						1	1			1
	小　計			17	11	5	0	5	0	3	4	0	18	5	5	4	1	23
総合計				47	28	20	1	24	6	4	15	1	55	24	24	14	3	75

表８　高等学校美術教科書　表現活動の題材名・作品内容と芸術文化学部授業科目

発行者	教科書記号	学年	題材名	美術科の表現活動で扱う内容別題材								芸術文化学部における専門教育科目（基幹科目、展開科目）						
				絵画	彫刻	デザイン	映像メディア	工芸	写真	プロジェクト	建築	情報処理関連	造形関連	工芸関連	デザイン関連	建築関連	材料関連	芸術文化論関連
日文	美Ⅰ 005	高1	身近なものを描く	1									1					
			配置と視点	1									1					
			道のある風景	1									1					
			写真から風景を描く	1					1				1		1			
			デッサンする眼	1									1					
			私を描く・あなたを描く	1									1					
			版画の魅力ー木版画	1									1				1	
			版画の魅力ー銅版画	1									1				1	
			版画の魅力ーリトグラフ	1									1				1	
			版画の魅力ーシルクスクリーン	1									1				1	
			土が「カタチ」になる時		1								1					
			彫ることーかたちづくること		1								1					
			色彩の基礎			1									1			
			文字の基礎			1									1			
			ポスター制作			1									1			
			VIの展開			1									1			
			時間をデザインする			1									1			
			針穴でのぞく、もう一つの世界				1					1			1			
			絵を動かすことの意味				1					1			1			
	美Ⅱ 004	高2	スケッチ	1		1					1		1		1	1		
			デッサン	1									1					
			絵の具の話	1									1				1	
			水彩画	1									1				1	
			油彩画	1									1				1	
			日本画	1									1				1	
			空間をとらえる		1								1					
			土から陶へ		1			1					1	1				
			気持ちを届ける形			1		1						1	1			
			写真表現のさまざまな形				1		1			1			1			
	小　計			**16**	**4**	**7**	**3**	**2**	**2**	**0**	**1**	**3**	**20**	**2**	**11**	**1**	**8**	**0**
光村	美Ⅰ 004	高1	色の世界	1		1		1	1	1	1		1	1	1	1	1	
			かたちをとらえる	1									1					
			風景を描く	1									1					
			空間をとらえる	1	1	1		1					1	1	1	1		1
			映像の展開			1	1		1	1	1	1	1		1	1		1
			メッセージの伝達	**1**		**1**	**1**						**1**		**1**			
			生活の中のかたち			1		1						1	1	1	1	
	美Ⅱ 003	高2	自然から学ぶ	1	1				1	1			1		1			
			自然素材の魅力		1			1					1	1				
			生活から生まれるかたち			1		1			1			1	1	1		
			制作にあたって	1	1	1		1					1	1	1			
			表現の手法	1	1	1					1		1		1	1		
	美Ⅲ 003	高3	美術作品と出合う場	1	1						1	1	1	1		1		1
			文化遺産の保存と継承	1	1						1		1			1	1	1
			生活とデザインのかかわり	1		1		1		1	1		1	1	1	1	1	1
				1	1				1				1		1			
			近代のデザインと建築		1	1		1			1		1		1			
	小　計			**12**	**9**	**9**	**2**	**7**	**4**	**4**	**8**	**2**	**15**	**8**	**12**	**9**	**4**	**5**
総合計				**28**	**13**	**16**	**5**	**9**	**6**	**4**	**9**	**5**	**35**	**10**	**23**	**10**	**12**	**5**

画、彫刻、デザインの順であるが、芸術文化学部で開講される授業科目を美術教科書内容別題材に振り分けるとデザイン題材、工芸題材、建築題材の順となり、芸術文化学部授業科目と美術教科書の表現と鑑賞の割合は似ているが、内容別題材として芸術文化学部授業科目と美術教科書題材をみると異なる分野を教育の対象にしていると考えられた。

美術教科書題材名を美術教科書の内容別題材で振り分けると、美術教科書は一見すると学習指導要領の示す内容を踏まえにくいものとなった。しかし美術教科書題材名を芸術文化学部授業科目分野に振り分けると、絵画や彫刻という要素を含む造形関連と、学習指導要領にみられる鑑賞指導の充実・地域の美術館や博物館の活用・美術文化への関心・地域や学校を中心とした鑑賞学習の要素を多く含む芸術文化論関連とが、１点差という違いで上位１，２位を占めることがわかった。そのため、鑑賞活動を重視し始めている学習指導要領を踏まえた美術教科書の内容を調べたものとしてわかりやすいものとなった。このことから、中・高美術教科書で注目される題材は、絵画や彫刻といったこれまでにも多く扱ってきた題材でありながらも、それらの活動を通してあるいはそれらとともに、共同による創造活動、地域や社会を強く意識した活動を行うことであると考えた。

４．おわりに

本研究の表６から表９をみると、本学部のいずれのコースに所属していても、中・高美術科で活かすことのできる教育を行っていることが改めてわかった。特に、学習指導要領において表現活動だけでなく鑑賞活動の重要性が記され、美術教科書に反映されてきているが、現状においてまだそれほど多くの鑑賞活動に関する研究はなされていない。そのため多くの指導者は、美術教科書

表９　高等学校美術教科書　鑑賞活動の題材名・作品内容と芸術文化学部授業科目分野

発行者	教科書記号	学年	題材名	美術科の鑑賞活動で扱う内容別題材								芸術文化学部における専門教育科目（基幹科目、展開科目）						
				絵画	彫刻	デザイン	映像メディア	工芸	写真	プロジェクト	建築	情報処理関連	造形関連	工芸関連	デザイン関連	建築関連	材料関連	芸術文化論関連
日文	美Ⅰ005	高1	人の心をとらえる	1	1	1							1		1			1
			花	1									1					1
			人々の生活と自然	1									1					1
			鏡に映る世界	1			1						1		1			1
			心の動きをそのまま記録する絵画	1									1					1
			描かれた夢	1									1					1
			彫刻家のアトリエから		1								1					1
			光のアート		1	1					1		1		1	1		1
			色彩計画と環境			1					1				1	1		1
			顔をテーマにしたポスター			1									1			1
			素材と感覚			1		1						1	1			1
			ファイリングとデザイン			1		1						1	1			1
			現代の写真						1			1			1			1
			映像で遊ぶ				1		1			1	1		1			1
	美Ⅱ004	高2	ルネサンスの理想	1									1					1
			イメージの実現		1					1	1		1			1		1
			琳派の様式	1									1					1
			人間の心と季節	1									1					1
			自然物から抽象へ	1									1					1
			今日の版画	1									1					1
			新しい絵画	1									1					1
			小さな彫刻		1			1					1	1				1
			漆の造形		1			1					1	1				1
			アートの祭典		1					1	1		1			1		1
			自然の中の現代美術		1					1	1		1			1		1
			描かれたアーティストたち	1		1							1		1			1
			言葉と音の造形	1		1	1					1	1		1			1
			もう一つの機能			1		1						1	1			1
			身近な環境デザイン			1					1				1	1		1
			新しいメディアによる表現		1		1					1	1		1			1
			写真と構図	1					1				1		1			1
			建築家のいない建築								1					1		1
	美Ⅲ004	高3		1	1	1	1				1							
	小　計			16	10	11	5	5	3	3	8	4	24	5	15	7	0	32
光村	美Ⅰ004	高1	作家の生涯と作品	1	1	1		1					1	1	1			1
			作品鑑賞室	1									1					1
			見る・知る・学ぶ	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1
			テーマ展示室	1	1	1							1		1			1
			作家インタビュー	1		1	1	1					1	1	1			1
	美Ⅱ003	高2	作家の生涯と作品	1	1	1							1		1			1
			作品鑑賞室	1									1					1
			見る・知る・学ぶ		1			1		1	1		1	1		1		1
			テーマ展示室	1					1				1		1			1
			作家インタビュー			1	1				1		1		1	1		1
	美Ⅲ003	高3	作家の生涯と作品	1	1				1				1		1			1
			見る・知る・学ぶ	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1		1
			作家インタビュー			1		1			1			1	1	1		1
	小　計			10	7	8	4	6	2	3	5	2	12	6	10	5	1	13
総合計				26	17	19	9	11	5	6	13	6	36	11	25	12	1	45

表10　総合計と順位

		美術科の活動で扱う内容別題材								芸術文化学部における専門教育科目（基幹科目、展開科目）						
		絵画	彫刻	デザイン	映像メディア	工芸	写真	プロジェクト	建築	情報処理関連	造形関連	工芸関連	デザイン関連	建築関連	材料関連	芸術文化論関連
中学	表現	63	30	44	13	31	6	6	13	8	75	31	47	13	2	7
	鑑賞	47	28	20	1	24	6	4	15	1	55	24	24	14	3	75
高校	表現	28	13	16	5	9	6	4	9	5	35	10	23	10	12	5
	鑑賞	26	17	19	9	11	5	6	13	6	36	11	25	12	1	45
総合計		**101**	**58**	**55**	**15**	**44**	**17**	**14**	**37**	**12**	**126**	**45**	**72**	**36**	**16**	**125**
順　位		**1**	**2**	**3**	**7**	**4**	**6**	**8**	**5**	**7**	**1**	**4**	**3**	**5**	**6**	**2**

にある鑑賞活動を手探りで実施している。そのような中で、芸術文化学部の学生は、鑑賞活動にかかわる多くの研究を芸術文化学部で経験している。これらの学生が中・高美術科教員を目指すならば、彼らは鑑賞活動を手探りというよりも経験をもとにした工夫によって実施していけるのではないかと思う。

芸術文化学部は、各授業科目における教育だけではなく、これまで特色ある多くの教育実践を行ってきてい

る。そのような実績のおかげで学生たちは、技能や素材や人や環境など様々な出会いをし、様々な経験を蓄積し自身の作品をプレゼンテーションし次の制作へ向けたステップアップを可能にしてきている。そのような中で美術科教育法の授業に参加する学生達は、自身の制作や研究発表までについては、ある程度の機転がきくようになっているが、それらの経験を指導する際の機転とするところにまではつながっていない。自身の経験を人に教えることを通してより深い理解につなげるという学びのサイクルは、美術科教育法だけの問題ではなく、学生の学びをさらに深めていくための一つの手段になりえるのではないかと筆者は思う。今後はこれまで芸術文化学部が取り組んできた教育実践を参考に、中・高美術科教員養成に活かされる、自身の経験を人に教えることを通してより深い理解につなげるという学びのサイクルについて考えていきたい。

注釈

※1 公益財団法人教科書研究センターの教科書目録情報データベースを参考にした。

※2 芸術文化学部のアドミッションポリシー：『人間の創造活動や自然環境などの、幅広い理解力と素養を持った社会人を養成するため、コースを横断的に学べる教育システムを採用し、芸術文化を中核とした専門教育を目指しています。また、創造活動の成果は、それだけで存在できるものではなく、創り手と使い手との良い関係を作るつなぎ手が無ければ存在できません。そのため「芸術文化の創り手」を養成するとともに、芸術文化を理解し社会で活かす「芸術文化の優れた使い手」、広く社会に芸術文化の定着と地域振興を進める「芸術文化のつなぎ手」を養成しています。』富山大学、2012富山大学案内、20頁。

※3 中学校教科書調査研究資料、東京都教育委員会、http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/　この別紙2－1の作品内容の表記には、「立体」という表記も含まれていたが、その表記にあてはまる作品を実際の教科書で確認すると、彫刻家ではない作家による作品のことを「立体」と表記していると思われた。本研究では、そのような分類方法を行う必要を見いだせなかった。そのため本研究上で「立体」に分類できそうなものがあった場合は、「彫刻」に含めることとした。

参考文献

1 花篤實、ほか32名「美術1　自由な心で」（美術711）、日本文教出版、平成22年
2 花篤實、ほか32名「美術２・３上　美を求めて」（美術811）、日本文教出版、平成22年
3 花篤實、ほか32名「美術２・３下　美術の広がり」（美術812）、日本文教出版、平成22年
4 野田弘志、ほか17名「美術1」（美術709）、光村図書出版、平成22年
5 野田弘志、ほか17名「美術２・３上　絵・彫刻編」（美術809）、光村図書出版、平成22年
6 野田弘志、ほか17名「美術２・３下　デザイン・工芸編」（美術810）、光村図書出版、平成22年
7 伊藤文彦、ほか15名「美術1」（美術707）、開隆堂出版、平成22年
8 伊藤文彦、ほか15名「美術２・３上」（美術807）、開隆堂出版、平成22年
9 伊藤文彦、ほか15名「美術２・３下」（美術808）、開隆堂出版、平成22年
10 絹谷幸二、ほか3名「美　創造へ１」（美1－006）、日本文教出版、平成22年
11 嘉門安雄、ほか8名「高校美術１」（美1－005）、日本文教出版、平成22年
12 嘉門安雄、ほか8名「高校美術２」（美2－004）、日本文教出版、平成22年
13 嘉門安雄、ほか8名「高校美術３」（美3－004）、日本文教出版、平成22年
14 野田弘志、ほか17名「美術Ｉ」（美術1－004）、光村図書出版、平成22年
15 野田弘志、ほか17名「美術２」（美2－003）、光村図書出版、平成22年
16 野田弘志、ほか17名「美術３」（美3－003）、光村図書出版、平成22年
17 文部科学省http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/bi.htm
18 文部科学省http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301w.htm
19 福井昭雄「新・学習指導要領－私はこう見る（図画工作・美術）一人一人の子どもを出発点として」、『教育研究所紀要第8号』、文教大学付属教育研究所、1999年